



メリハリをつけて優しく指導をする西崎さん

輝いています

ひと

日本舞踊の講師

にしざき まりな 西崎 万梨奈 さん

誰もが踊りに親しめるように

園

児や小学生、保護者を中心にした南公民館で活動をする「日本舞踊踊りの会」。肩肘を張らずに、親子で踊りの基礎や礼儀作法、着物の着方などを学べる場として親しまれています。そんな同会で「楽しみながら踊ること」を信条に指導をしているのが、この道40年の西崎万梨奈さん（43歳・南町2丁目）です。母に手を引かれ、3歳から市内の師匠の下へ。当初は友達と会えるのが楽しみで続いていた稽古も、11歳の頃、3つ上の先輩が舞台に立つ姿に憧れを抱き、熱が入るようになり、そのかいあって16歳で西崎流の名取りと師範になり、以来学業や仕事と両

立させながら、ひたむきに芸を磨いてきた西崎さん。「体の動かし方一つで『美』を表現する日本舞踊は答えがなく、生涯追求できるのが魅力ですね」と、その醍醐味を語ります。現在は3児の母でもある西崎さんは「気軽に和の文化と心に触れる機会を」と、3年前に教室をスタート。今では3歳から70歳代までの幅広い世代に指導をしています。更に子どもたちと市内のお祭りや町会の盆踊りなどにも出演し、催しに華を添えているほか、昨年からは定期的に南町の特別養護老人ホームの慰問へ。同施設の入所者に幼い頃、稽古でお世話になったため、恩返しとの思いから始めたのがきっかけです。「愛らしい様子に高齢者の皆さんは目を細め、褒められた子もうれしそうなんです」と、ほほえみます。今月6日の機まつりでも手おどりに参加し、蕨の夏を盛り上げたといふ意気込む西崎さん。今後の目標は、「踊りの楽しさを伝えながら、更に交流の輪を広げたいですね」と、にっこり。踊りをもっと身近なものに。その思いを胸にこれからも次世代と伝統文化をつなぐ懸け橋となり、地域に笑顔の花を咲かせていきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

— No. 3 —



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「猪に乗る蛙」

数え3歳の暁斎が母に連れられて、上州館林の親戚を訪れた際、初めて写生したのが蛙でした。それ以来、暁斎は数多くの作品に蛙を描いています。左の作品は、猪にまたがる蛙を描いた錦絵です。コウモリが先導し、バツタとカマキリが猪を囲んでともに駆けて行きます。

「曾我物語」に登場する新田四郎が大猪を退治した「富士の巻」を基にした戯画とされています。現在の企画展に展示中の「蛇を捕まえる蛙」などと同じ、うちわのための錦絵です。

Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館

「猫・犬・猿・虎 一暁斎の描いた動物たち」展
同時開催「第30回かえる展」
期間=8月24日(水)まで

開館=午前10時~午後4時
休館=木曜日 毎月26日~末日
ところ=南町4-36-4
入館料=一般540円 中学生~大学生
430円 小学生以下210円
(20人以上の団体は要予約)
詳細=同館 ☎441・9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

